

# 目指せ 家庭学習マスター！ ～数の概念の定着を目指そう～

算数の勉強と言うと「たし算」「ひき算」などの計算や図形をイメージしますが、1年生の最初では、「なかまあつめ」や「たりるかな?」といった種類ごとに分けたり比較したりすることに慣れるところから学びます。感覚的に解けてしまい「簡単すぎる!」と感じてしまう子もいるかもしれませんが、「多い・少ない」や「高い・低い」「長い・短い」など今後の算数の基盤となる大切な感覚なのでお家でも取り組んでみてください。

○なかまよしあつまれ(P1~P9)

実際に下の絵を使って具体的に説明してみます。

Q.1 この絵はだれが何をしているところかな?

A.うさぎとキツネと一緒に遊んでいるところです!

声に出して確認することで「うさぎときつね。」  
「遊んでいる。」などのような単語ではなく、「誰が何をしているところなのか。」を正しく言えるように反復練習をしましょう。

Q.2 何をして遊んでいるかな?ボールはみんなの分たりるかな?

A.バスケットボールをしているところです!

A.全然足りません。

ここでも「バスケットボール」だけでなく、「バスケットボールをしているところです。」と最後まできちんとと言えるようになるとういすね。簡単な質問でも算数的な力を自然と養うことができます。

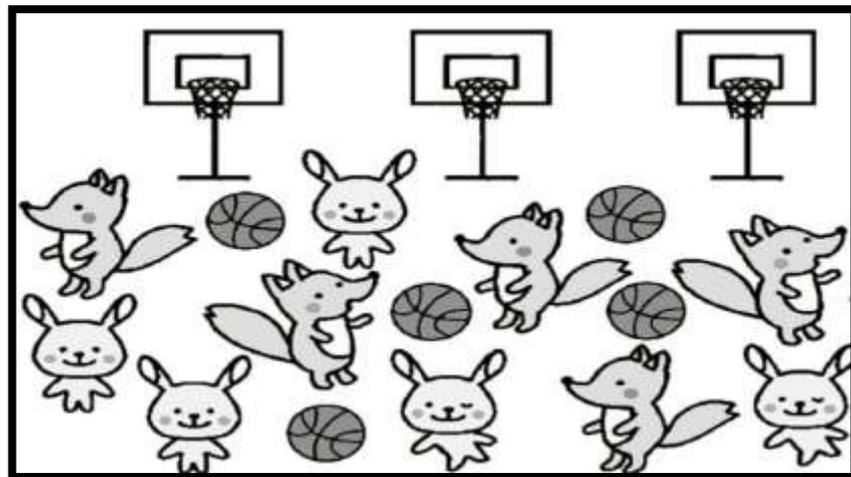
また、足りるかどうかを判断するために「数を数える」「比べる」という作業をしています。

Q.3 うさぎとキツネでは、どちらが多いかな? A.同じです。

数を比較するためにはそれぞれの数を数える必要があります。うさぎとキツネは、5と5で「同じ」という数量の概念の定着を図ります。

また、Q.2のようにボールとうさぎを比べたりボールとキツネを比べたりすることで、「何と何を比較させるのか」を意識させます。

同数ではない問題では、「バスケットゴールとボールでは、ボールが2つ多い。(ゴールが2つ少ない)」という数量の違いが表現できるようになるとよいです。



はじめての算数の単元「なかよしあつまれ」では、教科書を使って、以上のような内容を学びます。

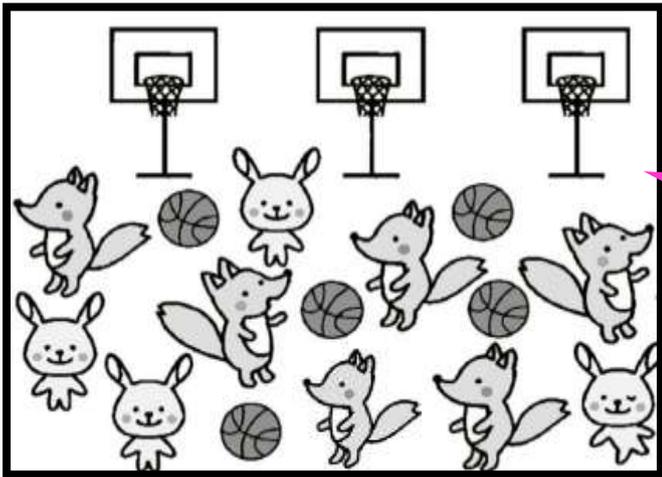
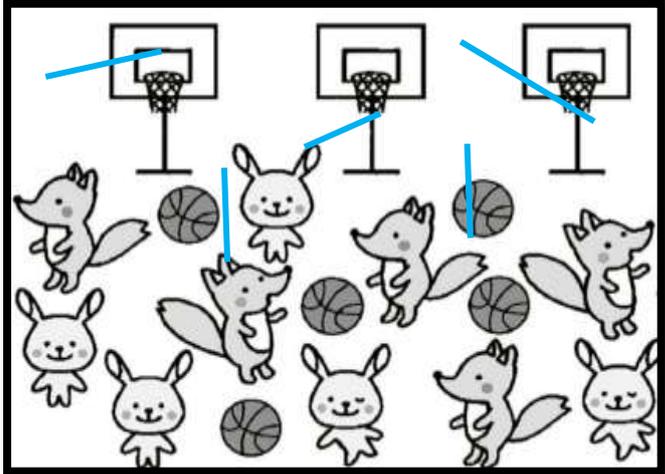
目標としては、「比べるために何の数を数えたら良いのかを正しく判断できるようになること」と「必要に応じて正しく仲間分けできるようになること」です。例えば「遊んでいるのは何ひきですか?」と聞かれたらうさぎもキツネも同じ遊んでいる動物なので同じ仲間として数えます。ですが「うさぎは何ひきですか?」や「キツネは何ひきですか?」と聞かれたらそれぞれの数を数えるということが必要になります。聞かれているものの数を正しく数え、答えることができるようになりますとよいです。



# 1. いくつか (P10~)

先ほどの問題のQ.2とQ.3にも関係しますが、数を数えたり比べたりするときに「線でつなぎましょう」や「色をぬりましょう」という作業をさせることがあります。「なぜわざわざ線でつないだり、色をぬったりするのか。」  
 「数え間違いをしなければ別に良いのではないか。」という疑問をもつ方もいらっしゃるかもしれませんが、これも今後の算数の学習につながる大切な習慣の一つとなります。

数を比べるときに、線で結んで確認する方法があります。数え間違いを防ぐ意味もちろんありますが、その他にも何と何を比較しているのかが一目でわかり、数えなくても同量なのかどちらが多いのか、少ないかを判断することもできます。



左のような絵の数量関係を図や表にまとめることができるようになるのも、算数において大切な技能の一つです。

1年生のこの段階では、「同じ数だけ色をぬりましょう」という活動になります。

- ① 基本的に鉛筆(黒)で丁寧にぬる。
- ② 左上から順番に塗ります。上の段(5)が全て埋まったら下の段の左側からぬる。

|  |   |   |   |   |   |
|--|---|---|---|---|---|
|  | ● | ● | ● | ○ | ○ |
|  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|  | ● | ● | ● | ● | ● |
|  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|  | ● | ● | ● | ● | ● |
|  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
|  | ● | ● | ● | ● | ○ |
|  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

保護者の皆様へ  
 休校が長引きとても大変な時期が続きます。無理のない程度で構いませんので、ポイントを意識しながらお子様の家庭学習を見ていただくとありがたいです。  
 よろしくお願ひします。